

Saijodan

広島城北高等学校サッカー部OB会

広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015

TEL 082-229-0111 FAX 082-229-0112



54回生 平岡 大和

『楽しむ』

初めまして。54回生の平岡大和です。この度、宮本先生よりお話を頂き、OB会報誌に執筆させて頂くこととなりました。このような機会をいただきありがとうございます。

私は現在、東洋大学生命科学部生命科学科の3年生です。大学に入ってからサッカーをしたいと思っていました。部活はキャンパスが異なる為にできず、社会人サッカーも慣れない環境であるため断念しました。その代わりにサークル活動をたくさんしようと考え、そこで入ったサークルがフットサルサークルとダンスサークルでした。どちらの活動もコロナウイルスの影響により中断していましたが、最近感染者数が減ったことで大学からの許可が下り、再開することができました。特にダンスはサッカーの次に好きな趣味となり、本気で取り組むようになりました。まだまだ技術的なことは上手くないですが、楽しくできています！

「楽しむ」ということは何をしても必要であることを、サッカーを通じて学びました。広島城北で過ごした6年間は、主にサッカーでいろいろな感情が生まれました。その中でも楽しい！と思いがら過ぎた時間は、人として大きく成長でき、それと共にサッカーも少しは上手くなりました。(笑)

ある程度の技術がなければ楽しめない、ということではなく、楽しみ方は人それぞれで誰にでも出来ることだと私は思います。この考え方ができるようになったのも広島城北サッカー部のおかげだと離れてから気付きました。

大学1年生の時、母から貰った本がありました。その本は、置かれた場所で咲きなさいという本でした。これを読んだ時、最初に思ったことも楽しむということでした。

これから私は就職活動や卒業研究などで忙しくなり、逃げたくなる時もあると思いますが、楽しむことを忘れず、ポジティブに過ごしていきます。また周りを巻き込み、勢いのある大人になれるよう精進します。

拙い文章に最後までお付き合いいただきありがとうございます。

55回生 天野 壮

『本気になれる場所』

はじめまして。55回生の天野壮です。この度伝統あるOB会報誌の執筆をさせて頂きたくことになり、とても光栄に思います。拙い文章ではありますが、最後まで読んで頂けると幸いです。

私は府中中学校から広島城北高校に入学しました。漠然と考えていた進路だったので、初めて最上段での練習に参加した時に、この学校に入学しようとするに決めました。なぜかという、熱くサッカーに取り組んでいる先輩たちの姿を見て、ここはサッカーに全力になれる場所だ、と強く感じたからです。そして入学してからは、「本気」になれるだけではなく、広島城北サッカー部は人の温かさを感じる事ができる場所だと気付きました。私は小中とサッカーをしていたのですが、自分の人間性の弱さから周りの人とたくさん揉めてしまったため、「楽しむ」ことができていませんでした。宮本先生に誘っていただき、中学3年生の冬から高3の選手権までの3年間、副キャプテンや最後の選手権ではキャプテンを務めさせて頂いたお陰で、色々な葛藤がありました。サッカーの本当の楽しさ、本気で取り組むことの素晴らしさを感じることができました。広島城北サッカー部は、全力になっている人に温かい場所であり、そして私に「本気」になれる環境を提供してくれました。全力でやる事がカッコいいことだと教えてくれたのもこの場所です。最高の3年間を過ごさせて頂きました。

しかし唯一今でも後悔していることがあります。それは高校最後の選手権です。自分なりにキャプテンとして覚悟や責任を持って臨んだのですが、結果は二回戦負け。やりきれない気持ちでいっぱいになり、何日も眠れない日が続きました。後悔することが無いように準備したものの後悔が残る、そんな最後でした。そんな後悔から、今もサッカーに全力になれる場所を求めて、現在広島県社会人一部リーグのEsperanza というチームでサッカーを続けています。「最上段」での様々な経験を生かして、チームの中で人一倍元気に、そしてひたむきに頑張ろうと決めて日々を過ごしています。

話は変わりますが、この場を借りて現役の選手に伝えたいことがあります。「最上段」は本気でサッカーに向き合える場所です。本気でやっている人を馬鹿にするような人は誰一人いません。自分を表現して、元気を出して頑張ってくださいと思います。

最後になりますが、OB会の一員になれたとはいえ、素晴らしい皆さんのOBの方々には、と、当然ながら私はまだまだ人間的にも未熟です。何も成果をなしていない学生です。だからこそまだまだ「最上段」にお世話になります。人間としても一人のサッカープレイヤーとしても成長するために、「最上段」にいく時には、現役の頃の気持ちを忘れず、練習に参加する中で広島城北サッカー部へ少しでも恩返しできたかなと思います。長くなりましたが拙い文章に最後まで目を通していただき、ありがとうございました。



55回生 上原 康太

『隠せず挑戦する』

初めまして、55回生の上原康太です。今回宮本先生より会報誌を執筆する話をいただき、書かせてもらうことになりました。拙文ではありますが最後まで読んでいただくと幸いです。

さて、私は現在広島大学経済学部部の二回生です。バイトに勉強に学外活動にといろいろなことをしながら、日々学生生活を満喫しています。

その生活ももうすぐ半分が過ぎます。僕たちの世代は大学一年のときにコロナが大流行し、入学式をはじめ大学での対面授業もなくなってしまっていて、友達ができない、故に人との交流が難しく、何もわからない状態で大学生活をスタートしました。最初の頃は右も左もわからずに大学生活を送っていて、大学生というよりは高校生の延長のような日々でした。

そんな中、自分を成長させてくれたのは「広島城北サッカー部で培ったこと」でした。大学生活がコロナでいろいろ制限される中、何もできないと思っていたけれど、よく探してみると様々なことができることを知りました。最初は尻込みして何もできていませんでしたが、一年の夏休みに最上段で後輩と触れ合い、彼らがいろんなことをやっている姿を見て、挑戦することの大事さを改めて再認識して大学に戻りました。そこから色々なことに挑戦していくと、大学生活がどんどん充実していききました。最も変わったのは交友関係です。様々なことに挑戦している人な話しかけてみると、多くの人が同じ悩みを抱えていたり、あるいは同じ目的をもっていたことなどを知りました。そんな人たちと過ごしていると、今ではとても仲の良い友達になりました。僕らの世代は大学の中で交友関係が難しく、苦しんでいる人が多く、大学でもそれが問題視されています。様々な取り組みで

その問題を解決しようとしている中、自分はその人と交流できて楽しい生活を送れています。また、以前OBのグループラインに投げさせてもらった学外での活動も、様々なことに挑戦していく中で出会った活動ですが、その活動にとっても熱を入れて生活することができています。こんなに大学生活が充実しているのは、最上段のおかげだと心から思っています。高校を卒業した後でも自分に学びをくれる、本場に大切な場所です。

最後に、今年自分たちは成人を迎える年ですが、まだまだ社会については全然知らないひよっこです。これからいろいろなことを相談させていってほしいと思いますが、そのときはいつでもみたくに優しく教えていただけると幸いです。

55回生 前川 玄武

『新たな挑戦』

はじめまして。この度、OB会報誌を執筆させて頂くこととなりました。55回生の前川玄武です。このような機会をいただきありがとうございます。今回は私の大学生活を中心に書かせていただきます。最後まで読んで頂けると幸いです。

私は今春、一年間の浪人生活を経て広島大学に入学しました。コロナ禍でどんな大学生活になるのか不安な気持ちもありましたが、今では新たな友人もでき、とても充実した日々を送っています。その中で私は新たにトライアスロンというスポーツに挑戦しています。中高と広島城北でサッカーを続けてきたので、最初は大学でも続けてみたいと思ったのですが、部活の方は週6と完全にサッカー漬けとなって大学生活を楽しめない、サークルの方はコロナの関係であまり練習ができていないなどの理由があり、大学でサッカーを続けることは難しい状況でした。

そんな中、部活勧誘の中にトライアスロンを見つけました。トライアスロンは水泳↓バイク(ロードバイク)↓ランニングの三種か

らなる競技で、①水泳は小学生までやってきた、②バイクは城北では自転車通学生だった、③ランは昔から体力には少し自信があった、以上三つの理由から体験練習に参加してみました。体験会では先輩方が分かりやすくロードバイクの乗り方などを教えてくださいました。その時のことや部活の雰囲気がとても良いことから、私はトライアスロンに興味を湧くようになり、それと同時にトライアスロンなら自分の良さを生かして楽しめるのではないかとも思いました。

私は中学になって本格的にサッカーをし始めたので、技術的に上手くはなくベンチ外だったことが多かったです。それが悔しかったのでたくさん練習して、何回かトップチームで出場するチャンスももらえるようになりましたが、そこにとどまることはできませんでした。高校になってからも練習することでトップチームに食らいつこうと励みました。その努力が周りに認められ、自分たちの代では公式戦のメンバーに選ばれるようになりました。そこまで成長することができ、うれしい気持ちにはあつたのですが、試合に出場する機会はありませんでした。メンバーに選ばれて試合に出てサッカーをしたかった、楽しみたかったという心残りがずっとありました。その気持ちを思い出し、トライアスロンでリベンジをしようと思心しました。トライアスロンの全国大会であるインカレに出場したい、結果を残したい、これを目標に入部を決めて練習に励みました。

そして今年のインカレ予選を突破し、本戦出場を決めました！実は例年だと1年生は日程の関係上インカレに出場することが出来ないので、今年はコロナの関係で例年よりも遅いエントリーとなりました。始めは初心者が出ていものかと少し迷いがありましたが、先輩方から「予選に出場してみたら？お前にはそれだけの實力があるぞ。1年生で出れるなんて贅沢だぞ(笑)」などと声をかけられて、予選に出場することを決めました。予選ではいいレースができ、最後のランで何人か追い抜いて見事にインカレへの切符を勝ち取りました。その時、競技は違うけれど中高サッカー部での練習が少

しは報われた気がしました。改めて努力は裏切らない、そう感じました。しかしインカレ本戦では周回差をつけられ、完走することが出来ませんでした。(バイクは同じコースを6周し、もしも先頭に追い付かれそうになったらそこでレースを止めないといけないルールがあります。)やはり全国のレベルは高く、その凄さを肌で感じさせられることになってしまいました。完走できなかったことはとても悔しかったのですが、ここで折れたら今までの頑張りがむだになる、インカレ出場という目標は達成できたのだから、自信を持って次のステージへ進んでいこうと心に決めました。

広島城北サッカー部で身に付けた、そして自分を支えてくれた向上心を忘れずに、これからも様々なことに取り組みしていきたいと思います。拙い文章でしたが、最後までお付き合いいただきありがとうございます。

2022初蹴りについて

来年1月3日に予定しておりました初蹴りは、新型コロナウイルス感染症が終息していない状況を鑑み、開催を中止させていただくこととなりました。

昨年に続いて大切な恒例行事を中止することとなり、初蹴りを楽しみにされていたOBをはじめ関係のみなさまに、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

最上段グラウンドは、これからも我々の「心のふるさと」であり、みなさんがいつでも帰ってこれる場所であり続けます。そこで日々頑張っている後輩達を、しっかり応援していきましょう。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

広島城北高校サッカー部OB会
会長 吉川 英 司